

## FLC ジャーナル No.3 あとがき

喜ばしい事に今回の FLC ジャーナル第3号に於いて、2つの言語（「日本語」と「中国語」）についての研究ノートが新しく加わりました。

両方共に本文は日本語で書かれ、要約は英語で書かれています。

第二外国語は、ほとんどの新生が、初めて学ぶ期待に胸を膨らませて選択する魅力的な科目です。出来るだけ多くのメニューが用意されている事が望まれます。

当実践女子大学では、今のところ「中国語」、「フランス語」、「ドイツ語」そして「コリア語」しかありません。「日本語」が数名の外国人学生の為に置かれています。

日本では「英語」が圧倒的で、日本政府の方針に沿って小学校にも浸透し始めました。

しかし今、地球上に多くの国が存在し、それぞれの国の中で、消えて行く方言のある事を認識する必要があります。それぞれの言葉には他の言葉と同等の価値があるに違いありません。我々はその事を肝に銘じ、出来る限り多くの異なる言語を学べる組織を作らなければならないでしょう。

《ユニヴァーシティ》<sup>ユニヴァー</sup>UNIVERSITYという言葉は、<sup>ヴァリエイティ</sup>VARIETY「多様性」を<sup>ユナイト</sup>UNITE「合体させる」という意味を持つと云われています。つまり、**大学**とは異なる専門分野を総合的な視野に立って考える所であり、異なる学部や学科が一箇所に集まって、それぞれが専門の学問を探究するだけの所ではない筈です。相互理解と協力の精神が望まれます。

異なる国々の思想や文化を理解する為の确实で有効な手段として、その国の言語を基本から学ぶ事に異論を唱える人は少ないと思われれます。

(文責：戸賀崎)